

翻訳にあたってのヒント

その7

1. 「say (誰々が～を言う)」の訳出パターン例：

直接話法（あるいは間接話法）の英文で、「(人・会社・組織等) says, “...”」、「”...” (人・会社・組織等) says.」、そして「”...” says (人・会社・組織等) .」といったような決まりきった単純なパターンでよくお目にかかるこの文章を、「～」と(人・会社・組織等)が言っている、「～」と(人・会社・組織等)が語っている、「～」と(人・会社・組織等)が述べている、といったような紋切り型の和訳にしてしまうと不自然な日本語になってしまうことが往々であると思われます。そこで和訳に変化とリズムをつける上での一助にでもなればと、今までメモ取りを通じて集めてきた私家版訳出パターンを列記してみました。

「体言止め」的訳出パターン：

- ① 「～」というのは(人・会社・組織等)。 / (人・会社・組織等)は言う。「～」(であると。)
- ② 「～」とは、(人・会社・組織等)の弁(だ)。
- ③ 「～」とは、(人・会社・組織等)の発言(意見/言葉/言明)。
- ④ 「～」とは、(人・会社・組織等)の言。
- ⑤ 「～」ということを口にしてしているのは、(人・会社・組織等)。
- ⑥ 「～」というのが、(人・会社・組織等)の意見(発言)である。
- ⑦ 「～」と話すのは、(人・会社・組織等)である。

「主語＋述語」的訳出パターン：

- ⑧ 「(人・会社・組織等)の話では、「～」だということです。
- ⑨ (人・会社・組織等)の話だと、「～」ということですね。
- ⑩ (人・会社・組織等)は、「～」を口にしてしている。
- ⑪ (人・会社・組織等)は、「～」をうたっている。
- ⑫ (人・会社・組織等)は、「～」だと語る(語っている)。
- ⑬ (人・会社・組織等)の言(談話)によれば、「～」だ。
- ⑭ (人・会社・組織等)は、「～」と発言している。
- ⑮ (人・会社・組織等)に言わせれば、「～」なのだ。
- ⑯ (人・会社・組織等)は、「～」だとおっしゃっている。
- ⑰ (人・会社・組織等)に言わせると、「～」だそうです。
- ⑱ (人・会社・組織等)の話だと、「～」だそうです。
- ⑲ (人・会社・組織等)は、「～」と言う(述べる/語る)。
- ⑳ (報道関係者・機関等)は、「～」だと伝えている(報じている/発表している)。

これらを活用した「said」が続発される英語の文章の試訳：

”...” said a senior Commission official. The legal expert said: “...” Mr. Itagaki said of the ~; “...” “...” an EC official said.

「～」と語ったのは委員会の上級役員。その法律の専門家は、「～」と発言した。板垣氏は～について次のように述べていた...。「～」欧州委員会の役員の話だと、「～」ということであった。

この訳出分の巧拙は別としても、私としては少なくとも「誰々が言った、語った、述べた...」といったような単調な訳よりは読みやすいし、比較的自然的な日本語になっているのではないかと思います。そんなつまらない言葉にこだわってと、おっしゃる方もおられるかもしれませんが、些細なところにも神経を使って気配りを惜しまず、分かればいいというのではなく、いかに流れるような日本語にするかに苦心するというのも翻訳者の務めの一つであると考えております。

I would say; It's a case of being easier said than done...

2. 「～を整備する」の訳出（英訳）パターン：

この言葉は日本語の文章の中では一語で足りる便利なものですが、いざ英語にするとなるとそのいわんとする意味が文脈に応じて七変化のごとく変化する多義的かつ曖昧模糊なものであるということに気付き、文脈に応じた適切な英訳を行う際に頭を悩ますものです。そこで去年の夏に海運関係の英訳文の校閲でお世話になった米国人チェッカーに校正していただいた訳出文から、自然的な英語に直されていたものを含めて、その訳出パターンをご紹介します。

① repair ... [文字通り修理して整えておく]、② put ... into good condition、③ maintain ... in good order、④ keep ... in good repair、⑤ keep ... neat and clean (or tidy) [整理整頓しておく]、⑥ place ... at the appropriate location(s) [所定の場所に確保・保管しておく]、⑦ check that ... is/are ready for use.、⑧ check ... (A) and put ... (B) [BはAを代名詞で受ける、単数であれば it、複数であれば them として] in good condition [点検整備する]、⑨ check that ... is/are in good working order.、⑩ service ...、⑪ provide (or furnish) ... with repair (or maintenance) service(s)、⑫ get ... ready for 目的、⑬ streamline ...、⑭ put (or maintain) ... in good working order、⑮ keep ... well organized、⑯ upgrade ...、⑰ provide ... with 物 [～に物を備えておく]、etc.

3. 知的所有権について：

最近、これがどういうものであるかをざっと目を通してすぐに分かる解説が手に入りま

したのでここに収録しました。ご参照ください。

知的所有権 (intellectual property) には、特許をはじめとする工業所有権 (industrial property) と、文字・絵画などの著作権 (copyright) がある。工業所有権には特許、実用新案、意匠、商標の四つがある。

特許権 (patent right) :

方法、物の生産方法を対象に、産業上利用できる新規性、進歩性のある発明という要件を満たすもの。権利の存続期間は出願の日から二十年。

実用新案権 (utility model right) :

物品の形状、構造または組み合わせにかかる考案で、発明ほど高度でなくてもいい。出願すれば無審査登録されるが、存続期間は出願の日から六年。

意匠権 (design right) :

物品の斬新なデザインを保護の対象とする。工業上利用できる創作、形状、模様、色彩またはこれらの組み合わせなどの要件がある。存続期間は登録の日から十五年。

商標権 (trademark right) :

自己の商品やサービスを他人のものと区別するために表示するマークを保護する。存続期間は十年だが、十年ごとに更新ができる。

著作権 (copyright) :

文化庁が管理する著作権は、著作物を創作した時点で自動的に権利が発生するのに対して、工業所有権 (特許権、実用新案権、意匠権、商標権の四つ) は管轄の特許庁に出願、登録して発生、保護される。

また「All rights reserved.」という英語がありますが、ふつうの英和辞典に「不許複製」の定義ぐらいしか載っていないこともあって、これに関する補足として私用メモで集めたその訳出パターンもご紹介します。

All rights reserved. 禁転載。/転載禁止。/不許複製。/全ての権利が留保済み。/本書 (本作品) の許可なき複製を禁ず。/著作権所有等、他にも多数の訳出法があり、英辞郎にもこちらから提案した訳例の一部が採用され掲載されています。

4. 特許用語に見られる動詞を和訳に生かす :

専門用語と日常会話で用いられる用語の乖離率（馴染みの度合い）が、英語が 25%強、日本語が 55%強であるということを耳にしたことがあります。これは一言で言えば、日本語では専門用語を普段の会話ではあまり使わないが、英語では会話で普通に使っている用語であっても、専門用語として頻出する度合いが高いということを示すものです。これは英文和訳を行う上で非常に重要かつ厄介な位置を占める問題である反面、和文英訳では平易な英語での表現を心がければよいということを示すものではないでしょうか。

特許用語に見られる「取りつける」という用語一つだけを例にとってみても、「巻着（けんちゃく）する＝巻きつける」、「重着（じゅうちゃく）する＝重ねてつける」、「掛着（けいちゃく）する＝掛けてつける」、「縫着（ほうちゃく）する＝縫いつける」、「締着（ていちゃく）する＝締めてつける」等、他多数の表現が見られます。特許文は明細書と別称されるように、あくまでも製品本体ではなく文面と図面で申請対象品が判断されるため、このような表現法が発達したようです。そしてどんな製品であっても特許申請は出されているはずですから、技師が上記のような言い回しを仕様明細書に表記することも珍しくないでしょう。このことから応用例として例えば英語で「tighten ... in place (or position)」という表現に出くわしたら、「～を（適所に）締着する」という和訳にすればびしやりと的を得た訳出が行える、ということが挙げられます。私自身は特許の翻訳はほとんど行いませんが、こういった動詞をできるだけ覚えたり、メモにして記録（特に英和中辞典クラスに直接メモしておく）したりしておけば、とりわけ技術英文の翻訳現場で、適訳に近い和訳の訳出に適宜活かしていけるのではないかと自負しております。以上一口メモでした。